研究機関名：下関市立市民病院

研究課題名：鏡視下腱板修復術患者の術後１年時点の JOAscore に関連する因子の検討

研究期間：承認日～2026 年 3 月 31 日

対象材料：

□病理材料（対象臓器名：　　）

□生検材料（対象臓器名　　）

□血液材料

□遊離細胞

■その他（診療録および診療・治療上の検査・測定の各種データ）

上記材料の採取期間：承認日　～　2025 年　3 月 31 日

意義：

腱板断裂に対する鏡視下腱板修復術は再断裂率の低さや関節可動域拡大など良好な治療成績が報告されている。腱板断裂患者の機能評価として JOAscore や患者立脚肩関節評価法 Shoulder36(V 1.3)が幅広く用いられている。JOAscore は、肩関節疾患における治療前後の比較に適応されることが多く、計 100 点のうち 80 点であれば臨床的に良好、50 点以下であれば臨床的に重篤とみなされている。今井らは、JOAscore のカットオフ値は 83.0 点に相当するとしている。患者立脚肩関節評価法 Shoulder36(V 1.3)は、計量心理学的検証を経た肩関節疾患に対するアンケート形式の評価法で、疼痛、可動域、筋力、健康感、日常生活機能、スポーツ能力の 6 領域 36 項目の質問項目で構成されており、Sh36 は肩関節疾患に対する完全な患者立脚式の評価法であり、検者の主観が入らない評価が可能とされている。これまで客観的な肩関節の機能評価と Sh36 の関連性を検討した研究や術前後での Sh36 を比較した研究は存在するが、最終的な機能転帰に対して患者立脚型評価である Sh36 が与える影響を検討した研究は散見されない。鏡視下腱板修復術患者における術後 1 年時点の JOAscore に関連する因子が明らかになれば、術前評価の段階で機能転帰の予測や術後理学療法プログラムの選択に役立てることができる可能性がある。

目的：

(1) 術後 1 年時点の JOAscore を良好群(83 点以上)、不良群(83 点未満)に分け群間比較を行い、特徴を明らかにする。

(2) 術前から術後 1 年にかけての JOAscore と Sh36 の関連性を明らかにする。

(3) 術後 1 年時点の JOAscore に及ぼす関連因子を明らかにする。

方法：

通常診療の範囲内で得られる基本情報や医学的情報、理学療法評価を診療録より収集する。

個人情報の取り扱い：

利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除致します。また、本研究結果が公表される場合にも、患者様を特定できる情報は利用しません。

問い合わせ・苦情等の窓口：

〒７５０－８５２０

山口県下関市向洋町一丁目１３番１号

下関市立市民病院　リハビリテーション部　伊藤　大地

TEL　０８３－２３１－４１１１　　FAX　０８３－２２４－３８３８